

小張総合病院「中心静脈注射用カテーテルに係る院内感染対策のための指針」

中心静脈カテーテル挿入術に起因する院内感染および医療事故を予防するために、小張総合病院における中心静脈注射用カテーテルに係る院内感染対策のための指針を定める。当指針は年一回程度見直すこととする。

【適応】: 中心静脈カテーテル挿入術(Central Venous Catheterization:以下 CVC)は、挿入時の動脈誤穿刺や気胸などの機械的合併症や、血流感染を引き起こす可能性があるため、リスク・ベネフィットを考慮して適応を検討する。

【術者】: CVC 挿入に当たっては、経験豊富な医師が施行することとする。研修医は、事前に方法、手技についてよく勉強した後に、経験豊富な医師の指導の元に施行することとする。

【説明と同意】: 当院規定の説明同意書を使用して、事前に患者さま、またはご家族に説明し同意を得る。ただし、緊急時においてはこの限りではない。

【感染対策】: 挿入時は、感染対策として高度無菌遮断予防策(Maximal sterile barrier precautions:以下 MBP)を実施する。

【サーベイランス】: 院内感染対策として、感染対策委員会が CVC による血流感染のサーベイランスを行う。

【参考】: 以下のガイドラインを参考にする。

安全な中心静脈カテーテル挿入・管理のためのプラクティカルガイド 2017: 公益社団法人日本麻酔科学会

中心静脈カテーテル挿入・管理に関する指針(改訂第 3 版 2020) 日本医療機能評価機構
血管内カテーテル関連感染防止 CDC ガイドライン 2011

2020 年 4 月 1 日制定

小張総合病院 病院長